

低コスト造林技術の開発

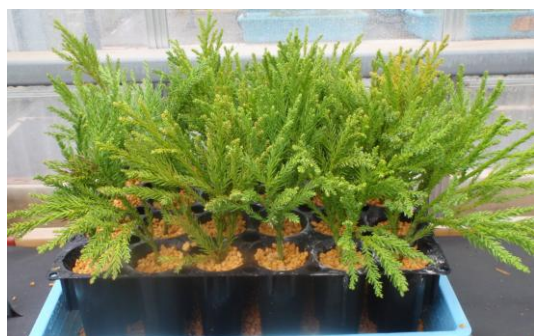
造林を行う時、植栽した苗木が一定の大きさになるまで下刈り※が行われます。そして、その費用は、初期造林費（植林後5年目までにかかる費用）の50%以上を占めます。そこで、下刈りの期間を短縮することで作業を軽減し、低コストで造林する技術を開発しました。

初期成長に優れた苗木生産を行うために、樹木用のさし木トレイの利用や、その後の苗畑での育苗に適した植栽間隔を明らかにしました。

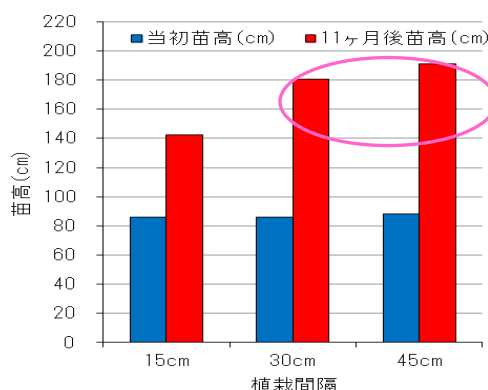
そして、植栽には1.5m以上の大苗を用いると、下刈りを行わなくても育成できる可能性が認められました。

※下刈り：植栽後、約5年ほどの間、苗木の生長を妨げる周囲の雑草木を刈り取る作業です。

1 初期生長に優れた苗木生産



【樹木用トレイでのスギ挿し木】



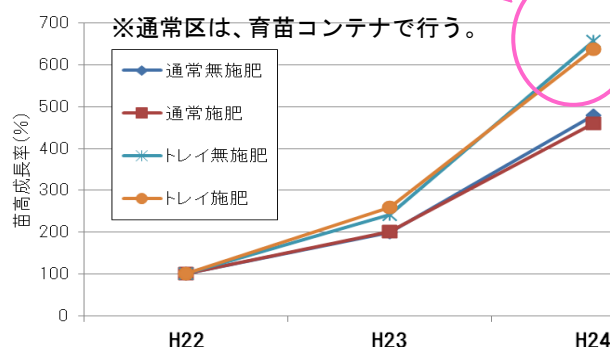
【苗畑での植栽間隔と成長量】

2 大苗での植栽

1.5mの大苗の植栽では、周囲の雑草木から抜きん出ているため、下刈りが不要となります。

(周辺雑草木は、調査の結果、高さが1mくらいにしかない種類のものだったため。)

トレイ苗は成長が良い



【苗畑での挿し木法別の成長率】



育苗コンテナ



樹木用トレイ (裏側)

植栽間隔が広いと苗の生育はよくなりますが、面積当たりの植えられる苗数が少なくなります。

成長量と面積効率から植栽間隔30cmが適当でした。



【大苗の植栽6ヶ月後】